

年末年始交通事故防止運動・警戒活動出発式

昨年12月9日(金)、薩摩川内警察署において年末年始交通事故防止運動・警戒活動出発式が行われました。甲冑に身を包んだ警察官の「出陣じゃー!」の合図に合わせ、パトカー、白バイ隊、青パト隊などが次々とパトロールに出発し、交通事故防止や防犯を呼び掛けました。



【情報提供：薩摩川内警察署】

農産物直売マルシェで農家さんと交流

昨年12月11日(日)、安国寺(中郷三丁目)にて地元農家さんを応援する直売マルシェを開催しました。愛情たっぷり野菜の直売の他、スイーツ販売、ワークショップやアート体験を実施し、親子連れなど多くの方に来場していただきました。野菜の育て方、おいしいレシピのお話など、農家さんと来場者の交流も弾みました。



【情報提供：KS organic kids+】

すてきな正月になるように

昨年12月11日(日)、少年自然の家で「新年を迎える手作りのつどい」を行いました。個人や家族、友人など総勢48人の参加者がすてきな門松やしめ縄を楽しみながら制作し、笑顔いっぱい正月の準備をすることができました。



「ねりんピックかながわ2022」で3位入賞

昨年12月16日(金)、神奈川県で開催されたねりんピックにソフトテニス団体県代表として出場された市内在住の4選手が、市長を表敬訪問しました。大会結果報告後、大会期間中のさまざまなエピソードやスポーツ・文化交流の場、生きがいと活力ある社会の大切さについて思いを述べられました。



【左から藤崎誠氏、田畑日美子氏、田中市長、梁川尚子氏、坂上尚志氏】

手話通訳者の資格取得に向けて

昨年12月22日(木)、中央公民館で手話講習会の閉講式を行いました。5月に2つの講習会を開講し、各講習会10人ずつ、20の方が30回にわたる講習会を修了し、市長から修了証を授与されました。受講者は引き続き、来年度以降に実施されるステップアップの講習会を受け、手話通訳者の資格取得を目指します。



冬のアドベンチャー 「薩摩川内ぼっけもんの挑戦」

昨年12月25日(日)から2泊3日で参加者28人が冬のアドベンチャーに挑戦しました。冬晴れの空のもと、約100kmの自転車走行や入来へのキンカン狩り体験、班活動を通して、友情や強い心身を育み、ふるさとの素晴らしさを再確認することができました。



人のしるすに

笹野 千津子さん



「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当ててことを目的としています。

茶商からも高い評価を受けている本市産のお茶。全国2位の生産量を誇る鹿児島県の中でも、本市では、川内川流域の霧深い中で育まれ、香り高い茶葉が生産されています。今回は、次世代への承継、担い手づくりのため、市内外に向け積極的にお茶の魅力を広める農業者の思いに寄り添います。

まずは知ってもらおう場を

日置市出身で、幼い頃から周りに茶園がある風景になじみがあった笹野さん。県内で医療関係の仕事に就いていましたが、結婚・出産を機に平成21年ごろから夫と家族が営む茶業に携わるようになりました。

その中で感じたのは農業の担い手の高齢化や人材不足。自分たちが動かなければこのまま農業が衰退していくのでは」と強い危機感を抱きます。

そこで、「お茶を知っていたら、本市に人を呼び込めるようなことをしたい。そのために、お茶を実際に飲んでほしい、外見では分かりづらい味や香りなどのお茶の魅力を伝えられる場、楽しんでもらえる場が必要ではないか」と考え、令和元年、東郷町南瀬の自社工場敷地内に「茶寮ささの」をオープン。これにより生産、製造、小売り、飲食、体験全ての工程をワンストップで実施できるようになりました。

現在は、花や音楽などさまざまな分野の方と協力してお茶を身近に楽しめるような取り組みや、県内外への出店、品評会に出品しお茶の魅力を直接伝えるなど、多岐にわたって活動しています。

地元の魅力を多くの方に

次世代の担い手づくりのための取り組みについて尋ねたところ、Instagramを使って情報発信に力を入れている。「地元や県内の方には何気ない日常の風景が、県外の方にとっては新鮮な風景に映り、興味を持ってもらえるのでは」と、農業の美しさや、収穫の喜びなどを発信しているそうです。

また、お客さまや子どもたちと触れ合う中で、地元おいしい食材や、すてきな場所があることに気付かず、市外にそれを探しているとも感じているそうです。「本市のお茶を飲んでいただくたいのほもちろんですが、外ではなく内に目を向け、地元にはたくさんある魅力を見つけて楽しんでほしいです」と、普段気付かない地元の魅力を伝えるためにも、情報発信の大切さを教えてくれました。

「お茶一杯の幸せのために」をモットーに

お茶作りで大切にしているこちらの言葉。
来ていただいたお客さまからの「おいしかった」「贈ったら喜んでくれた」との声や、市外の方が「お茶を飲みたかったから来たんです」と足を運んでくれることが一番の喜びとのこと。

夏の暑さ、冬の寒さが厳しい中、一年を通して頑張ってくれるスタッフの皆さんの励みにもなっているのではと話してくれました。

「評価というものは、一つ悪いことがあると一気に下がってしまいます。そういう意味では、『安全・安心』なものを作ることは、製造業にとって一番難しいと感じています。しかし、私たちのお茶をおいしいと言ってくださるお客さまを裏切らないために、これからも安全・安心なお茶作りを着実にやっていきたいです」と、大きな飛躍よりもお客さまからの信頼の大切さを熱く話してくれました。

そんな笹野さんは、明日の担い手のため、大切なお客さまの安らぎのために、今日もお茶を提供しています。



▲笹野製茶 ホームページ
▲茶寮ささの Instagram

「まちの話題」は、市民の皆さんから情報提供いただき、身近な話題を掲載しています。ぜひ投稿ください。